

第1回

気象ビジネスフォーラム

主催 気象ビジネス推進コンソーシアム

プログラム

平成29年3月7日(火)

13:00~15:30

星陵会館

1 開会挨拶 13:00 ~ 13:05 (5分)

国土交通大臣 石井 啓一

2 基調講演 13:05 ~ 13:30 (25分)

東京大学大学院情報学環 教授 越塚 登

3 シンポジウム 13:30 ~ 15:30 (120分)

(1) パネリストミニプレゼン 13:30 ~ 14:10 (40分)

(株)三井物産戦略研究所 平田祥一郎

(株)ローソン 秦野 芳宏

大塚製薬(株) 藤川 優

ヤフー(株) 田中 真司

(株)ハレックス 越智 政昭

気象庁 大林 正典

— 休憩 — 14:10 ~ 14:20 (10分)

(2) パネルディスカッション 14:20 ~ 15:30 (70分)

コーディネーター (株)三菱総合研究所 村上 文洋

※敬称は省略させていただきます。

基調講演者紹介



越塚 登

基調講演者

東京大学大学院情報学環 教授

1994年 東京大学大学院理学系研究科博士課程修了、博士(理学)。東京大学大学院人文社会系研究科・助教授等を経て、2006年4月より大学院情報学環・学際情報学府教授。2002年3月より、YRP ユビキタス・ネットワーキング研究所・副所長を兼務。2016年4月より、東京大学大学院学際情報学府 総合分析情報学コース長。

専門は計算機科学(Computer Science)。特に、Ubiquitous Computing や IoT (Internet of Things) や Linked Open Data、Operating System、Computer Network、Human Computer Interface などの研究に取り組んできた。近年は社会基盤としての情報システムに関心を持つ。

【基調講演】「オープンデータ、AI 及び IoT の最新動向」

パネリスト紹介



平田 祥一郎

パネリスト

(株)三井物産戦略研究所 技術・イノベーション情報部 シニアマネージャー

都内特許事務所に入社後、国内外の知財権利化支援に従事。日本技術貿易を経て、平成21年6月より現職。現在は、三井物産グループ向け知財コンサル部門にて、知的財産デューデリジェンスや知財情報解析を活用したマーケティングとともに、国内外の気象ビジネスに関する調査研究を担当。

近年、世界各地で記録的な干ばつや竜巻などの異常気象や、地震や火山の噴火などの自然災害が続発しており、交通業界やエネルギー業界に限らず、建設業界や小売業界などの多岐にわたる産業分野に大きな影響を与えている。日本国内では、都市域で浸水被害を引き起こす局地的豪雨(いわゆるゲリラ豪雨)が、交通網に与える影響だけでなく人命にも関わる身近な問題として広く一般に注目されている。これら気象に関するデータは、直接観測だけでなく、リモートセンシングや気象衛星などを通じて収集され、スーパーコンピュータ等による様々な予測が行われている。昨今、ビッグデータやIoT、人工知能の活用への関心が高まっているなか、膨大な量が提供される気象データだが、徐々にその利活用が進んでいる。

そこで、国内外の今後拡大が期待される気象データのビジネス利用について、国内外の現状とともに、課題と今後の期待可能性について講演する。

パネリスト



秦野 芳宏

(株)ローソン 経営戦略本部 本部長補佐

2009年 株式会社ローソン 入社
2014年 ITステーション情報活用推進本部 部長
2017年3月より 経営戦略本部 本部長補佐

コンビニエンスストアの全国の店舗数は主要チェーン合計で約5万5千店舗に達しており、国民の生活インフラとして重要な存在となっている一方で、物流・製造セクターにあたるインパクトも非常に大きなものとなっている。必要な商品を必要な店舗に届けるために、当社では個店ごとの売り上げ動向やお客様に関する情報などの分析に基づき「自店に最適な品揃え」と「商品別の発注数」を自動的に推奨する発注システムを全店で導入しており、発注精度の向上に努めている。気象関連の側面からは、年間の季節変動と日々の天候、また突発的な気象イベントにより、店舗での販売が大きく変動するため、これらの要因を取り込んだ販売予測をすることが予測精度を上げるうえで重要な課題である。梅雨入り・梅雨明け、気温の上昇、台風・大雪などによる影響を事例を交えて紹介していく。

パネリスト



藤川 優

大塚製薬(株) 業務管理部 次長

平成27年9月入社後より現職。前職では、歴代社長の渉外担当秘書として、政府・行政委員や財界活動等のアシスタントを担当した。健康に関するあらゆるテーマに挑戦する大塚製薬(株)に仕事を移してからは、これまでのキャリアを活かし、健康産業と国・行政の橋渡しをしながら、社会に貢献できる独創的で革新的な製品創出に従事し、昨今関心が高い「熱中症」対策の啓蒙にも勤しむ。

トータルヘルスケアカンパニーの大塚グループは、国連が提唱するグローバルコンパクト（UNGC）に署名・参加。同原則8に「環境に対する責任のイニシアチブ」が謳われ、気象関連における災害対応等の主導的役割が期待されている。また、2015年国連サミットでは「SDGs：持続可能な開発目標」が採択され、気候変動とその影響に立ち向かうために緊急対策を取ることが織り込まれた。

大塚製薬は、現在のような地球環境の厳しい変化の中、Fast Supply, Keep Longという機能価値をもつ“ポカリスエット”を中心とする自社製品にて、「熱中症」対策においては水分だけでなく塩分・糖質補給の重要性を説く啓発活動を20年以上に亘り実施。特に、気象情報（熱中症対策のための指標「WBGT（暑さ指数）」予報）を活用した、暑熱環境下における作業時のリスクアセスメントや暑さへの順化対応アクセスなどでは、具体的な対処法までをも網羅している。

パネリスト



田中 真司

ヤフー(株) Yahoo!天気・災害 サービスマネージャー

民間気象会社、一般財団法人気象業務支援センターを経て、2008年にヤフー株式会社へ入社。2012年からYahoo!天気・災害サービスマネージャーとして気象情報、防災情報の発信に取り組んでいる。

ヤフーではサービス開始当初の1996年から天気情報をインターネットで配信してきました。

当初は天気予報だけでしたが、防災情報などインターネットを通じてお伝えする情報が増え、今では災害情報などはスマートフォンで真っ先に知るといったケースが増えてきています。

今後、全てのモノがインターネットにつながると言われていますが、ヤフーでも「myThings」というサービスを通じてIoTへの取り組みをはじめています。その中において気象情報のニーズは非常に高く利用率が高いことがわかっています。ヤフーでのIoT活用の事例を通じて気象情報の持つポテンシャルや課題についてお話をします。

パネリスト



越智 政昭

(株)ハレックス 代表取締役社長

1978年、広島大学工学部卒。日本電信電話公社(現NTT)に入社後、デジタル伝送システムの開発に従事。1985年より現NTTデータにて電子政府関連システム等の開発・営業等に従事。2003年、株式会社ハレックス代表取締役社長に就任(非常勤)。2006年、営業企画部長としてNTTデータ・グループ全体の営業改革に従事。2009年、NTTデータ退職、株式会社ハレックス代表取締役社長(常勤)となる。2005年～2010年、埼玉大学工学部非常勤講師。

ITの分野では、近年、オープンデータやビッグデータという言葉が時代のトレンドのようになってきています。私達民間気象情報会社のもとには気象庁のスーパーコンピュータから出力される様々な気象予報データ、全国1,300ヶ所以上に設置されたアメダス等から分刻みで送られてくる観測データ、さらにはリアルタイムに送られてくる気象レーダーのデータなど、膨大なデータが逐次送られてきます。まさに気象情報はオープンデータ、ビッグデータのフロントランナーとも呼べるものです。しかし、このようなオープンデータ、ビッグデータは世の中の方々が抱える様々な課題を解決して初めて価値を持つものです。その鍵を握るのが、データサイエンティスト化している気象予報士達が支えるアナリティクスです。プレゼンでは『アナリティクスで生まれ変わる気象情報ビジネス』と題して、気象ビッグデータを活用していく上での基本的な手順や直面している課題について、実務を通して感じていることを述べさせていただきます。

パネリスト



大林 正典

気象庁総務部 企画課長

平成27年4月より現職。平成6年に気象庁入庁後、数値予報課、気象衛星課等の気象庁本庁や沖縄気象台、大阪管区気象台において幅広く気象分野に従事し、現在は気象庁全体の政策の舵取りを担う。

気象庁では、一般の方が目にする機会が多い通常の天気予報や各種の警報、台風情報などに加え、多様な気象情報を提供しています。気象データは日々の生活で利用されている一方、その全体像については案外知られていない部分が多いように思われます。プレゼンテーションでは、気象データのビッグデータとしての特性に加え、気象データを気象庁がどのように作成し、どのような形で提供しているのか、さらに気象データはビジネスの現場でどのように活用されているのかを簡単にご説明いたします。また、気象データの取得するにあたっての気象庁のホームページの利用ガイドや、気象データの高度利用に向けた今後の気象庁の取組についてもご案内いたします。

コーディネーター紹介

コーディネーター



村上 文洋

(株)三菱総合研究所 社会ICT事業本部 主席研究員

1960年2月 愛知県生まれ。名古屋大学工学部建築学科卒業。一級建築士。地域設計研究所(株)、(株)エイ・エス・ティを経て、1988年1月 株式会社 三菱総合研究所 入社。専門は、電子行政、オープンデータ、ユニバーサルデザイン。

コーディネーターとして、幅広い分野での気象データの活用可能性や、官民がそれぞれ取り組むべき事項などを、パネリストのみなさんから聞き出したいと思います。